

Gikyoan Times

No.0016

岐阜県教販通信

2021 年 12 月発行

スクールイーライブラリー読書感想文コンクール

当社は岐阜県の全小中高校に教科書を供給し続けて 100 年以上の会社です。当社は岐阜県の全小中学校に「スクールイーライブラリー」進呈させて頂きました。電子図書によって新しい読書の機会を与えることで深い学びにつながる一助となればと思います。スクールイーライブラリーの読書感想文コンクールのご参加誠にありがとうございました。詳細情報は当社 HP (<http://www.gifukenkyohan.co.jp>) のバナーでご確認もできます。岐阜県教販通信のバックナンバーも HP に記載しておりますのでご覧いただくと幸いです。

岐阜県教販株式会社主催の読書感想文コンクールで、審査を担当させてもらった。

何より驚いたのは、応募作品数の多さだ。二学期に入ってから募集を開始し、べ切が 10 月半ばという慌ただしい日程、しかもコロナ禍の緊急事態宣言対応もある中で、岐阜県全域の各地から 2000 を超す応募があったわけだ。改めて、読書に対する関心の深さ、また読書感想文というジャンルの根強い存在感を感じた次第である。

前回の文章にも書いた通り、本を読むという行為は非常に重要な「学び」だと思っている。わたしが学んだことの大半は、読書という行為に裏付けられていると言っていい。前回ご紹介したのは小学校低学年での読書体験だったが、その後も本との縁は切れ間なく続いた。

専ら学校の図書室が自分の「本棚」だったが、友達の家にも読みたい本があると、借りて来ることもあった。ヒュー・ロフティングの「ドリトル先生」シリーズは、全 12 巻を揃えてある家に、たびたび遊びに行っては借りて読破した。動物と会話ができるドリトル先生の活動ぶりから、異文化との交流や冒険の面白さを知った。

高学年になると、お小遣いを貯めて自分で本を買うことを覚える。「月世界旅行」「海底二万哩」「八十日間世界一周」「十五少年漂流記」など、ジュール・ヴェルヌの SF や冒険小説に夢中になり、子ども向け全集を買い揃えた。

イギリス生まれで、作家としてはアメリカで活躍したロフティング、フランスのヴェルヌの作品を読み漁った経験は、後に欧米人の生活様式や物の考え方を理解するのに役立ったと思う。ことに、彼らが活躍したのは 19 世紀後半から 20 世紀前半であり、欧米

欧米人の世界観を知ることであり、世界近代史の学びにもなったはずだ。

一方で、図書室では子ども向け歴史書を借りまくった。日本だけでなく、中国、欧米と広がっていく。といっても子ども向けだから、物語性が強い。これが、後になって良かったと思う。本格的に歴史を学ぶようになったとき、理屈や知識だけで憶え込むのではなく、歴史の中には「人間」がいるのだという意識を常に持つことができた。

中学に入ると、さながら「本の虫」だった。月に 20 冊くらいのペースで読んでいた。もう子ども向けではなく、大人の読むものを図書館で借りたり本屋で買ったり、乏しいお小遣いを有効活用するために古本屋にまで出入りするようになった。小説、歴史書がほとんどで、二葉亭四迷、漱石、鴉外、泉鏡花、太宰治、安岡章太郎、吉行淳之介、遠藤周作といった作家の作品を系統的に読んだ経験は、自分の人生観を形づくってくれた。

歴史書を深く読み込むにつけ、歴史学者になりたいと思うようになっていた。結局はその道に進まなかったものの、歴史書で学んだ日本史、世界史は、文部科学省の役人として仕事をする上で、大いに役に立った。

ただ、本ばかり読んでいて予習、復習はもちろん宿題もロクにやらないから、成績は急降下していく。国語と日本史、世界史以外の科目は惨憺たる有様だった。でも中学生のわたしは、読書を通して自分が学んでいるという満足感で一杯だったのである。そして、自分の意思で読んだ本が与えてくれた「学び」は、その後もしっかり身について、裏切ることはなかった。

読書による「学び」の価値は、授業での「学び」と同じくらいの価値を持っていると、わたしは思う。



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952 年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省 NO.1 の論客でならし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身